様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月　９ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2020
課題番号：１５Ｋ０２３４９

研究課題名（和文）モダニズム文学形成期の英米における慶應義塾の介在と役割

研究課題名（英文）Modernism and Keio University around the Turn of the Century

研究代表者
巽　孝之（Tatsumi, Takayuki）

慶應義塾大学・文学部（三田）・教授

研究者番号：３０１５５０９８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究で不可欠なのは英米のモダニズムと日本の近代化とがいかなる相互交渉を行なったかという歴史的背景の分析であり、特に福澤諭吉や野口米次郎らの環大陸的動向に焦点を定めてきたが、2020年度にはその文脈の成果として、まず慶應義塾大学アメリカ学会の 2019年 12月の国際シンポジウムを踏まえた論文を同学会の機関誌創刊号に発表したこと、さらに同テーマで日本学術会議が主催した国際シンポジウム「言語・文学委員会 人文学の国際化と日本語文科会」に出席して論考「日英モダニズムの果実」を発表したこと、またそこで得られた見識を世界文学語圏横断ネットワークにおける世界文学シンポジウムで討議することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
明治維新以来、我が国は世界雄飛によって欧米の文物を積極的に吸収することで近代化を図りそのモダニズム文学や芸術を促進してきたように思われてきた。しかし、本研究が明かすのは、たとえば野口米次郎のように、慶應義塾在学中に渡米して英語詩人となり英国詩壇の巨匠 W・ B・イエイツらに高く評価され、モダニズムの旗手エズラ・パウンドらに決定的影響を与えるに至った逸材の存在である。近代化もその批判的言説としてのモダニズムも一方通行ではなく、欧米との双方向的な関係を結んでいたこと、そうした回路を円滑に機能させた横浜正金銀行のような国際的金融機関が一定の役割を果たしたことへの注目は、本研究独自の学術的視点である。

研究成果の概要（英文）： This project has consistently focused on the transnational literary and cultural negotiations between Euro-American Modernists and Japanese Modernizers, with special emphasis on the figures like Fukuzawa Yukichi and Noguchi Yonejiro. From this perspective this year I could publish a very ambitious article “Transnational American Studies: or, Trans-Atlantic, Trans-Pacific, Trans-Chronological” l in the inaugural issue of the Journal of Keio American Studies(April), delivered a paper on comparative modernism at the international symposium sponsored by Science Council of Japan(July), and discussed the theoretical dimension of World Literature at an interdisciplinary symposium held by Cross-Lingual Network(March 2021). Although COVID-19 prevented me from conducting an extensive research in the United States, the development of ZOOM made it easier for us to have international discussions with Euro-American and Australasian specialists in the field of Modernism and Modernization.

研究分野：アメリカ研究

キーワード：横浜正金銀行　南方熊楠　夏目漱石　小泉信三　野口米次郎　近代化　エズラ・パウンド　モダニズム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

研究代表者は元々アメリカ文学を中心としたアメリカ研究者であるが、父が英文学者であり、その父が晩年、伝記を書こうと準備を進めていた祖父が世紀転換期には日本初の外国為替銀行である横浜正金銀行ロンドン支店に勤務し、 1910 年代にはその支配人を勤めていたため、 2005 年よりその足跡を辿り直していたところ、慶應義塾を中心とする思わぬ国際的ネットワークが浮上してきた。世紀転換期のモダニズム時代は、欧米のみならず東アジアでも帝国主義が勃興し、アメリカでは米西戦争から米比戦争、アジアでは日清戦争から日露戦争が勃発したけれども、まさにその折に、日本と世界を接続し、二十世紀初頭のグローバルな政治経済の趨勢に加担していたのは、疑いなく、東京銀行や三菱 UFJ 銀行の先祖に当たる横浜正金銀行である。日露戦争から第一次世界大戦、関東大震災に至るまで、同行が歴史の結節点で果たした経済的役割は、あまりにも大きい。だが、往々にして見逃されるのは、創立者に福澤諭吉を含む同行が、単に金融面で業績を残すのみならず、南方熊楠や永井荷風、小泉信三、水上滝太郎、野口米次郎など若き知識人や文学者らを中心にした文化的人脈をも育んでいたことだ。とすれば、一見即物的に見える銀行の外国為替ネットワークならぬ人的ネットワークのうちに、世紀転換期モダニズムの形成にも関わる重要な文化史的意義が隠されていたのではないか。そしてその折に、国際感覚あふれる鎌田栄吉第 4 代塾長のもとで多くの才能あふれる留学生を輩出していた慶應義塾大学が、大きな役割を演じていたのではないかというのが、この研究の出発点である。

２．研究の目的

19 世紀末、西南戦争の煽りを承けて、福澤諭吉や大隈重信の尽力により創設された横浜正金銀行は日本初の国際的銀行であり、外国為替の処理をその身上としていた。ただし当時の同行が海外で果たした役割は、今日ならばメセナと呼んでもいいものであり、日本からの留学生や多様な組織の駐在員に対して深く細やかな配慮を示した。 21 世紀の現在、グローバル・ネットワークの名のもとに全地球的に電子化された非人間的な銀行とは全く異なり、当時は人脈という文化資本がやり取りされていたのである。昨今では同行の研究も進み、商学や経済学の専門家による論文や研究書も少なくないが、しかし同行が残したモダニズム文化史上の意義は、金融の専門家が対象とする文脈だけでは掬い取れない。 一例を挙げれば、のちに慶應義塾に初の文芸雑誌「三田文学」をもたらすことになる永井荷風は、その前歴において横浜正金銀行ニューヨーク支店、リヨン支店に勤務した。研究代表者は横浜正金銀行ロンドン支店長を務めた巽孝之丞の孫であり、祖父周辺に慶應義塾の逸材である小泉信三や水上滝太郎のみならず、同じ和歌山県出身の文化人類学者南方熊楠までが集っていた人脈を熟知する。明治後期から大正時代にかけて、銀行がいかに今日とは異なる人的資源の宝庫であったかを、祖父が銀行員として出発した横浜正金銀行サンフランシスコ支店時代から支店長となるロンドン支店時代までを射程に説き起こし、大英図書館に残された膨大な資料と、英米ジャパン・ソサエティ関係者を中心に行う現地調査を駆使して明かしていくのが、本研究の最終目的である。

３．研究の方法

研究代表者はすでに本研究については 2005 年以降、何度もロンドンに足を運び゛、現地調査を行ってきたが、やはり肝心な方法論となったのは、大英図書館を中心とする新聞雑誌の調査とともに、さまざまな分野における関係者の証言の集積である。とりわけ、横浜正金銀行が存在した当時、すなわち 1890 年代から 1920 年代の歴史的証言については、ロンドン支店長が代々暮らしたと言われる ロンドン南部ストレイタムに郷土史協会の活動があり、すでにその主要会員たちとは交流がある。加えて、ロンドン在住の経済史家にして作家としても知られる伊藤恵子氏は、研究代表者の祖父の後の代に属するロンドン支店長加納久朗子爵の孫にあたり、すでにこの研究への全面的協力を申し出てくださっているばかりか、横浜正金銀行上海支店が第二次世界大戦でいかなる対応をしていたかを歴史小説 *My Shanghai1942-1946* にまとめ、英文で上梓された。この伊藤恵子氏の甥が 2021 年に慶應義塾大学の新塾長となった伊藤公平氏であるのは偶然とは思われない。加えて、現在、靖国神社に権禰宜

として勤務する野田安平氏は、文字通りロンドン支店長のストレイタム宅における専属料理人・野田安之助氏を祖父に持っておられ、目下、その伝記を鋭意執筆中と聞く。以上に挙げた方々は、いずれも本研究に深い関心を示しており、これまでにも全面的協力をしてくださった。 このような事情で、インターネット時代のご利益というべきか、研究代表者のウェブサイトを通して、本研究は広く知られるところとなり、昨今では思わぬところから招聘されることとなった。世紀末のロンドン滞在時代には、基本的に和歌山県出身者の多かった横浜正金銀行から絶大な援助が施されていた、我が国を代表する博物学者・南方熊楠の業績を記念する南方熊楠顕彰館が、それである。同館で理事を務める若手日本史学者・志村真幸氏は「南方熊楠のロンドン」なる著書でサントリー学芸賞に輝く俊英だが、彼の肝煎りで、現在、同館にてロンドン支店長だった祖父を主題とする「巽孝之丞展」が開催予定となり、研究代表者にも全面的な協力が要請されているが、それは結果的に以後の本研究をさらに深化させるだろう。

４．研究成果

本研究の中核を占める横浜正金銀行は慶應義塾に密接に関連するネットワークから分析されているため、成果としての「横浜正金銀行の文学史――漱石、荷風、米次郎」（2018 年）をはじめとする論文群の主たる発表舞台は「三田文学」となったが、それらを読み参照し新たな研究を発表した学者研究者が少なくない。たとえば横浜正金銀行ロンドン支店の多大な援助を受けた博物学者・南方熊楠を記念する顕彰館の機関誌への寄稿依頼があったのでそれに応えたばかりか、 2021 年度後半には同顕彰館にてロンドン支店長だった研究代表者の祖父を中心に展覧会を行う計画のために協力するのは、実質的に新たな共同研究になるだろう。加えて、ロンドン支店赴任以前の 1890 年代初頭、まだ 20 代の祖父はサンフランシスコ支店で働いていたが、その折にヨセミテ国立公園へ足を運んでいる事実と、熊楠が熊野において展開した神社合祀反対運動、転じては一種の自然保護運動を祖父の弟、衆議院議長であった中村啓次郎が支援した事実とを照らし合わせてエコクリティシズム研究学会の共同論文集に「聖樹伝説――ヨセミテの杜、熊野の杜」（ 2017 年）を寄稿したが、これが高く評価され、この路線を発展させた論考を 2021 年秋には日本ソロー学会における特別講演で披露する予定である。加えて、研究代表者は横浜正金銀行との関わりをも一環とする慶應義塾とアメリカ、及び慶應義塾とモダニズムの関わりについて、ここ十年ほど折に触れて講義してきたが、その一端を 2021 年 3 月の最終講義で披露し、これはオンラインで全世界に配信され、以後も YouTube で閲覧数 5000 回を超え、世界各国のジャパノロジストから反響を得たので、この講義を中心にした単著「最後の授業――慶應義塾とアメリカ」を 2021 年度中には小鳥遊書房より刊行予定である。加えて、世紀転換期に野口米次郎らとも交流のあった小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）についてはその曽孫である民俗学者・小泉凡氏とここ 20 年ほど交友関係があり、彼との対話で得られた知見をもとに 2019 年にはダブリンの国際会議で講演し、多大な反響を得たことも、本研究の国際的可能性を確認する契機となった。

＜上記に関連する業績一覧＞

1. 講演：「シャーロック・ホームズの街で――小泉信三、南方熊楠、巽孝之丞」（司会：高山宏）、2016 年 10 月 24 日、於・大妻女子大学多摩校 比較文化学部棟 1 階 3130 教室
2. シンポジウム：「慶應義塾文學科教授・永井荷風――『三田文學』通巻 800 号突破を記念して」慶應義塾大学藝文学会（司会兼講師：巽孝之、講師：末延芳晴、持田叙子、ピーター・バナード、コメンテータ：荻野アンナ）2018 年 12 月 14 日、於・慶應義塾大学三田キャンパス北館ホール
3. 『エコクリティシズムの波を超えて――人新世の地球を生きる』塩田弘＆松永京子ほか編（音羽書房鶴見書店、2017 年）終章「聖樹伝説――ヨセミテの杜、熊野の杜」（401-19 頁）担当
4. 「横浜正金銀行の文学史――漱石、荷風、米次郎」『三田文學』第 135 号、2018 年、136-52 頁。
5. 「ケイコ・イトウ『わが上海：1942-1946』を読む――横浜正金銀行と日系社会」『AALA Journal』第 24 号、2018 年、26-38 頁。
6. 「最後の授業――慶應義塾とアメリカ」（司会・大串尚代） 2021 年 3 月 13 日、於・慶應義塾大学三田キャンパス北館ホール（オンライン配信）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計12件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 巽孝之	４．巻 116
２．論文標題 総括と注釈――横浜正金銀行の文学史にふれて	５．発行年 2019年
３．雑誌名 藝文研究	６．最初と最後の頁 85-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 巽孝之	４．巻 52
２．論文標題 『失われた大義』ノート	５．発行年 2019年
３．雑誌名 富士見高原愛好会会報	６．最初と最後の頁 26-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 巽孝之	４．巻 54
２．論文標題 柴田勝家「ヒト夜の永い夢」評	５．発行年 2019年
３．雑誌名 熊楠Works	６．最初と最後の頁 81-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 巽孝之	４．巻 135
２．論文標題 横浜正金銀行の文学史――漱石、荷風、米次郎	５．発行年 2018年
３．雑誌名 三田文学	６．最初と最後の頁 136-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 巽孝之	4．巻 24
2．論文標題 ケイコ・イトウ『わが上海：1942-1946』を読む――横浜正金銀行と日系社会	5．発行年 2018年
3．雑誌名 AALA Journal	6．最初と最後の頁 26-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 巽孝之	4．巻 51
2．論文標題 サンモール会修道院のあったころ	5．発行年 2018年
3．雑誌名 富士見高原愛好会会報	6．最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 巽孝之	4．巻 79
2．論文標題 環大陸的アメリカ文学史のために	5．発行年 2018年
3．雑誌名 アメリカ文学　東京支部会報	6．最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takayuki Tatsumi	4．巻 1
2．論文標題 U.S.-Japan Literary Interactions in the Transpacific Cultural History	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Oxford Research Encyclopedia of Literature	6．最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/acrefore/9780190201098.013.201	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 巽孝之	4．巻 49
2．論文標題 大きな樅の木の下で	5．発行年 2016年
3．雑誌名 富士見高原愛好会報	6．最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 巽孝之	4．巻 8
2．論文標題 カッサンドラ・コンプレックス――予言の文学と環境批評	5．発行年 2015年
3．雑誌名 エコクリティシズム・レヴュー	6．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 巽孝之	4．巻 10
2．論文標題 アウーダのために――『八十日間世界一周』の文学思想史序説	5．発行年 2015年
3．雑誌名 EXCELSIOR！	6．最初と最後の頁 16-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 巽孝之	4．巻 20
2．論文標題 新奇という名の神話――ハーン＝八雲の環太平洋――	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Panic Americana	6．最初と最後の頁 15-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計18件（うち招待講演　7件／うち国際学会　8件）

1．発表者名 菊池道男（司会・巽孝之）
2．発表標題 世界経済の変容と横浜正金銀行――各時代、業務に関わった人々
3．学会等名 「モダニズム文化と世界経済」シンポジウム
4．発表年 2019年

1．発表者名 Takayuki Tatsumi
2．発表標題 Lafcadio Hearn: the Unsung Hero of Japanese SFF
3．学会等名 The 77th World Science Fiction Convention “Dublin 2019”（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Takayuki Tatsumi
2．発表標題 Translating and Adapting American Renaissance Writers in Japan
3．学会等名 “Translation and Modernity in Japan” Conference at University of British Columbia（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 巽孝之
2．発表標題 文化への抵抗
3．学会等名 日本英文学会第 90回全国大会
4．発表年 2018年

１．発表者名 Takayuki Tatsumi
２．発表標題 In Pym's Footsteps: Poe, Ooka, Ballard
３．学会等名 The International Poe and Hawthorne Conference（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 巽孝之
２．発表標題 ケイコ・イトウ『わが上海： 1942-1946』を読む――横浜正金銀行と日系社会
３．学会等名 第 26回アジア系アメリカ文学会フォーラム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Takayuki Tatsumi
２．発表標題 Ghost in the City――Towards the Aesthetics of the Cyber-Picturesque
３．学会等名 Center for Asia-Pacific Initiatives Conference "The Nonhuman in Japanese Culture and Society"（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 巽孝之
２．発表標題 横浜正金銀行の文学史
３．学会等名 慶應義塾大学藝文学会シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 細野香里
２．発表標題 ポーとトウェインーーモダニズム前史
３．学会等名 慶應義塾大学アメリカ学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Takayuki Tatsumi
２．発表標題 Crossing the Line: The Rhetoric of Decapitation in Moby-Dick
３．学会等名 The 11th International Herman Melville Conference（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 巽孝之
２．発表標題 避暑地の文化史：環境と文化の 50年
３．学会等名 富士見高原夏季大学（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 志賀俊介
２．発表標題 ホーソーン、ムカージー、ラヒリ：大英帝国の影に
３．学会等名 慶應義塾大学アメリカ学会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 野田安平
２．発表標題 国際料理人　野田安之助の肖像
３．学会等名 慶應義塾大学藝文学会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Fuhito Endo, Todd Dufresne, Keiko Ogata, Takayuki Tatsumi
２．発表標題 The Rhetoric of Exodus: Reading Barbara Johnson's Reading of Freud
３．学会等名 Pacific Ancient and Modern Language Association 114th Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Takayuki Tatsumi
２．発表標題 "Young America in Literature" Reconsidered ---ARS LONGA VITA BREVIS---
３．学会等名 The 10th International Herman Melville Conference（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 巽孝之、小泉凡
２．発表標題 小泉八雲とSF的想像力
３．学会等名 第54回日本SF大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 Takayuki Tatsumi
２．発表標題 “The Barren Land of Figures: the Intellectual Limits and Liminality of Auerbach, de Man and Mizumura”
３．学会等名 The 7th Annual LiberLit Conference（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 巽孝之、伊藤恵子
２．発表標題 歴史家が小説を書く時――My Shanghai, 1942-1946を中心に
３．学会等名 慶應義塾大学藝文學會
４．発表年 2016年

〔図書〕　計8件

１．著者名 Takayuki Tatsumi, Nina Morgan and Alfred Hornung (co-editor), Shelley Fisher Fishkin, Kevin Gaines, Mary Knighton, Yoishiko Uzawa, Hiromi Ochi and others (contributors)	４．発行年 2019年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 380
３．書名 The Routledge Companion to Transnational American Studies	

１．著者名 Takayuki Tatsumi (editor), Shelley Fisher Fishkin(Preface),Gary Okihiro, Greg Robinson,Etsuko Taketani, Mary Knighton and others (contributors)	４．発行年 2019年
２．出版社 SAGE	５．総ページ数 1142
３．書名 Trans-Pacific Cultural Studies (4 vols)	

1．著者名 Takayuki Tatsumi	4．発行年 2018年
2．出版社 Sairyusha	5．総ページ数 180
3．書名 Young Americans in Literature: The Post-Romantic Turn in the Age of Poe, Hawthorne and Melville	

1．著者名 巽孝之（潮田弘、松永京子編）	4．発行年 2018年
2．出版社 音羽書房鶴見書店	5．総ページ数 436
3．書名 エコクリティシズムの波を超えて ： 人新世の地球を生きる	

1．著者名 巽孝之　（富士見高原愛好会編）	4．発行年 2017年
2．出版社 彩流社	5．総ページ数 287
3．書名 富士見高原：環境と文化の 50年	

1．著者名 Joe Bray, Stephen J. Burn, David Ciccoricco, Theo D'haen, Martin Dines, Thomas Docherty, Robert Eaglestone, Amy Elias, Andrew Epstein, Wendy B. Faris, Ellen G. Friedman, Amanda Gluibizzi, Elana Gomel, John Hellmann, Andrew Hoberek, John Johnston, Brian McHale, Michael Mercil, Len Platt, Takayuki Tatsumi, 他	4．発行年 2016年
2．出版社 Cambridge University Press	5．総ページ数 539
3．書名 The Cambridge History of Postmodern Literature	

１．著者名 津久井良充、市川薫、市谷智子、岩井学、片岡美喜、清水明、巽孝之、伊達恵理、戸田勉、早川敦子、谷原繁長	４．発行年 2017年
２．出版社 開文社出版	５．総ページ数 336
３．書名 『架空の国に起きる不思議な戦争』	

１．著者名 Takayuki Tatsumi, Alexander Dunst, Stefan Schlensag, Marcus Boon, Mark Bould, James Burton, Erik Davis, Richard Doyle, Yari Lanci, Roger Luckhurst, Laurence A. Rickels, Chris Rudge	４．発行年 2015年
２．出版社 Palgrave Macmillan	５．総ページ数 234
３．書名 The World According to Philip K. Dick	

〔産業財産権〕

〔その他〕

末延芳晴氏特別講演会「永井荷風と慶應義塾」
http://panicliterati.tatsumizemi.com/p/10.html
入子文子先生特別講演会「ホーソーン『緋文字』研究の新展開――バーコヴィッチを超えて」
http://panicliterati.tatsumizemi.com/p/11.html
Panic Literati 第8回 Keiko Itoh
http://panicliterati.tatsumizemi.com/p/8.html

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会 "Dissertation Workshop in American Studies: The Frontiers of Border Narrative under Trump's Presidency" featuring Fareed Ben=Youssef, moderated by Takayuki Tatsumi	開催年 2017年～2017年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関